

子どもは未来をつかみたい



2006年年度出版図書

2006年度 年次報告書

2006年7月1日 - 2007年6月30日

2007年度 年次計画書

目次

2006年度 事業報告	
この1年	1
出版プロジェクト	2
読書推進運動	3
子ども文化センター	4
組織運営	5
国内事業	7
25年のあゆみ	8
2006年度 会計報告・2007年度収支予算...	9
2007年度 事業計画	11

この一年

今年度で終了する第3次中期計画の3カ年の中で目標設定は、

①「システム化」(活動の定着・普及)と「人づくり」(ラオス側担い手の能力向上)の両面から、プロジェクトの自立化を具体的に進めていく。②プロジェクトの立案と運営に当たっては、子どもの参加とアカウンタビリティに留意する。③ラオス事務所の「自立」「現地化」へ向けた組織の基盤づくりと人材育成を行い、運動を支える人的・経済的資源の確保を図る。その過程で、アカウンタビリティの確立をめ

とされてきました。

この計画にのっとり、プロジェクトのシステム化とそれを担う人材の育成を、現地での活動の自立につながる重要事項として取り組み、その結果、この1年、プロジェクトは概ね計画通りに進捗してきたといえます。しかし年度末に、ラオス事務所でスタッフの一部がバックマージンを私的に受領していた問題が発覚し、アカウンタビリティの重要性が共有されていなかったことが明らかになり、組織運営が問われる事態となりました。

NGO活動は、事業の成果だけでなく、それを生み出す過程でのモラルを含めた組織としての質が確保されなければなりません。このことをあらためて肝に銘じ、お詫びとともに、今後への反省としたいと考えています。

会の活動は、多くの皆さまにご支援を受け、今年、25年目を迎えました。今期年度末までに会がラオスで出版した図書は127種類約60万冊。ラオスの小中学校約8,500校のうち2,589校へ図書箱・図書袋を配付し、161校で学校図書室を開設。全国9カ所の子ども文化センターを運営支援しています。

「ラオスには本がないから、子どもたちに絵本を送ろう」と素朴な気持ちで始めた活動は、「子どもが本に親しむことができる環境」「子どもがのびのびと主人公になれる居場所」の提供を経て、今では、ラオスの人々自らがそうした環境を形成していくための支援へと発展しています。

ラオスの出版状況は、現在、いくつもの個人、団体が出版を手がけるようになり、都市部では購買層も生まれつつあります。社会の変化は目まぐるしいものがあります。

都会では子どもも携帯電話をもち、インターネットを楽しむ姿がある一方で、農村山間部では経済発展の恩恵をまだ受けていない子どもたちも多く、社会の分裂が起きつつあります。また、都市部での子どもたちに十分な居場所がないことが、非行をはじめとしたさまざまな問題を引き起こす遠因となっています。子どもたちの環境が変化し多様となっている現在、来期からスタートする第4次中期計画は、この変化を意識したものとなります。

残念ながら今期においても、「現地プロジェクトを継続的に支える」ための資金を十分に整えることはできませんでした。ラオスの教育環境の改善を通して、子どもたちがよりよい人生を選びとる力を伸ばしていけるよう、東京とラオス事務所のスタッフの能力向上を図り、支援して下さる方々から共感され、信頼される活動を行うべく、今後とも組織力の向上の努力を続けていきます。

ご支援にお礼申し上げます、本年度の活動を報告させていただきます。

事務局長 野口朝夫



出版プロジェクト

この1年の活動

- 出版数は計画の90%を達成
- 8作品40,800冊を出版
- 通算127タイトル・総部数約60万冊となる
- コンクール実施で出版候補品多数発掘

I. 出版

出版プロジェクトは、図書8タイトル、紙芝居1タイトル、計40,800部を出版しました。出版数は計画の90%を達成。出版準備に入っている作品が5作品あり、出版事業は動きが活発化しています。

今年度は、計画通りに予算を確保することが出来、コンクールの実施により、出版候補作品数も多数確保することが出来ました。一方で、人材不足から編集作業が遅れ、出版時期が大幅にずれ込んでしまう状況も少なくありませんでした。編集者の育成が急務の課題となっています。

II. 出版作品 (作品名/著者/出版部数/主な支援者)

■ 翻訳絵本



『マハートマー・ガンジーの生涯』

オートン(訳) 5,000部
キヤノン株式会社・指定募金

『私たちの世界』

フリップ(文) タラウオン(訳)コンハット(絵)
5,000部 JICA・自己資金



■ 図書



『ともだち』

ミーノイ 他7名(文)
5,000部 JICA・Centre de Langue
(CCCL)・自己資金

『穴に落ちたヒヨコ』

オートン(文) ウォンサワン(絵)
5,000部 JICA・自己資金



『少女ヌアンドーム』

ウティン(文) シッコ(絵)
5,000部 JICA・自己資金

『リズムで学ぶ単語』

マハーシラウイラウオン(文)ウォンサワン(絵)
8,000部 JICA・自己資金



■ 辞書



『ラオス語辞典』

マハーシラウイラウオン(編集)
800部 自己資金

■ 紙芝居

『いぱりんぼうの針くん』

ウティ(作) 2,000部
学習院女子大学



III. コンクールの開催

作家の育成と発掘を目的にコンクールを実施。中学生から社会人まで、全国9県から合計228点の応募がありました。ノンフィクション分野、エッセイ分野、短編小説分野から、合計38作品が入賞。入賞作品のうち、以下1点が今年度に出版されました。



『10月1日』

スックパンスー他6名(文)
5,000部 JICA・自己資金

IV. 本の流通システムの形成

他団体への有償譲渡を積極的におこない、得られた資金で、新たな本の出版や増刷費用に充てました。譲渡を依頼する団体が増え、特に私立幼稚園や小学校からの依頼も増加。また、「子どもブックフェスティバル」をはじめとした各種イベントでの本の販売は反響が高く、都市部では図書を扱う層が確実に形成されつつあります。

事務所1階を改装し、図書販売スペースを設置しました。

V. 資料図書の収集

絵本作りに携わったり、絵本作りを志す人々のために、ラオス事務所内に資料コーナーの設置を計画。これまでの絵本のストックを整理し、配置するための準備をしています。予算不足から実行できなかった資料用図書の購入を徐々に開始しました。

VI. 読書推進ニュースレターの発行

読書推進運動事業内で実施しました。(詳細は、草の根技術協力事業の項目を参照)

読書推進活動

この1年の活動

- JICAとの草の根技術協力事業を実施
- 活読書習慣を身につけることを目指す
- 6地域16校に学校図書室を開設

本を読む環境の整備

読書推進運動は、読書が習慣化されることで、子どもたちの識字能力が向上し、表現力を養い、自らの力をのばしていくことをめざしています。

子どもたちが読書の機会を得て、読書習慣を身につけることをめざし、JICAとの草の根技術協力事業を中心に読書推進運動に関連する各種プロジェクトを実施してきました。

■草の根技術協力事業

本年度は下記活動を実施しました。

- 6作品20,000部の図書を出版(本タイトルは出版の項目を参照)4作品が出版準備中
- 配付対象4県371校に図書を配付
 - ・3県の165校へ新規図書セットを配付(1校あたり115タイトル 計21,600冊を配付)
 - ・2県の206校へ補充図書セットを配付(1校あたり83タイトル 計19,158冊を配付)
- 配付時に、配付対象校の教員に対し、読書推進セミナーを実施。1校1名の教員が参加。各地域の指導官も参加し、計400名がセミナーを受講。県単位で計7回のセミナーを実施。
- 読書推進センター設置に向け、ヴィエンチャン県教育局と協議を実施。次年度設置予定。
- 読書推進ニュースレターを創刊。今年度中に3号まで発行。

※読書推進ニュースレターは、読書推進活動の理念を伝え、活動の広がりや定着を目的として創刊。子どもの投稿文や絵、各地域での読書推進活動、新刊図書の紹介などが掲載され、子ども、教員、地域住民が楽しめるように作られています。

(JICAとの共同事業)

■学校図書室(ハックアーン)整備

小中高等学校の空き教室を利用して、学校図書室を開設する活動です。数多い開設希望の中から、教員の協力度合いや校舎の状態などを把握し、開設を決定。図書室に必要な図書と本棚、読書用の机椅子

を整備、オープン時には読書推進活動のノウハウを提供するセミナーを実施しています。

本年は、以下の6地域にて、小学校10校、中学高校6校と計16校に開設しました。

カムワン県／小学校3校

ルアンナムター県／小学校1校・中学高校3校

ヴィエンチャン県／小学校3校

サイヤブリー県／小学校1校・中学高校1校

サワンナケート県／小学校1校・中学高校1校

ボリカムサイ県／小学校1校・中学高校1校

近年は現地での資金調達をめざし、本年は3校がラオスで調達した支援による開設です。資金提供者が多く集まったことから、計画より2校多く開設することができました。これで当会の支援で開設された図書室は、全国で161カ所となりました。

図書室のニーズが高まる一方で、担当者の転勤などに伴い、活動が停滞している図書室が見られることがフォローアップ調査によりわかってきました。また、開設した図書室の数が増えるに従い、図書の補充費用の確保といった課題への対処が早急に求められています。

そこで、図書の補充とあわせて、北部・中部・南部の地域ごとに学校図書室の担当教員を集めたトレーニングセミナーを実施し、担当教員の能力を高めると共に、近隣地域の担当教員同士が交流し合うことで、活動を活性化させることを計画しました。

(ご支援:ベルマーク教育助成財団、三井住友銀行ボランティア基金、豊島福祉財団、若林地所(株)、(株)まるやま、Lao-Japan Airport Terminal Service、Ford Motor Company、Ms.KISAKO ICHIHARA、Ms.TOKIKO NAKAMURA、Ms.HARUE OKADA、Mr.Hiroki Nakagawa)



子ども文化センター（CCC）

この1年の活動

- ラオスで2回目の子どもブックフェスティバル開催
1,300人を超える来場者！
- CCC活動ハンドブックセミナーを実施
- 今後のCCC支援のあり方を模索

I. 広がりと定着

私たちが、94年に最初の子ども文化センターを開設支援して10年余。情報文化省大衆文化局にできたセンター担当が積極的に活動を広め、現在、全国13県20ヶ所で子ども文化センターは展開しています。そのうち、当会は、ボリカムサイ、サイヤブリ、ルアンパバン各県の大規模CCC及び、ヴィエンチャン都シーサタナーク区、サイヤブリ県ゲンタオ市、ポーテン市、パクライ市の小規模CCC、CCCと同様の活動をおこなっているヴィエンチャン子ども教育開発センター（CEC）、ノンセンチャン子ども開発センター（CDC）の合計9ヶ所で運営支援をおこないました。これらの施設には、年間のべ20万人以上の子どもたちが来館しています。

各センターでは、絵画・伝統音楽・伝統舞踊・歌・ゲーム・編み物・織物・英語・演劇・木彫・工作・粘土・人形劇・スポーツ・料理・彫刻・詩・読み聞かせなどの講座が開催。主に中学生までの子どもたちが活動に参加しています。子ども参加の一環として、卒業した子どもたちが年下の子どもたちの活動をサポートしたり、郊外の学校へキャラバンを組んで出かけ、センター活動を広げる役割を自発的におこなうなど、若手ボランティアの育成にも力を入れています。

ヴィエンチャンCECでは、コーラスや詩など、新たな講座への取り組みが出ています。ラオス側の自主的な企画も増え、ラオス国内の企業に働きかけて資金を得るなど、活動が活発化。一方で、地方のCCCは、チャンスがなかなか得られないことから、マンネリ化や停滞が進んでいるところが見受けられます。



II. CCC活動ハンドブックセミナー（評価会議）

CCC活動が全国に広がり根付いてくる一方、近年、CCCの役割や目的に対する考え方に少々バラツキがでており、また、スタッフの入れ替えなどで、活動の質が下がってきていることが指摘されるようになってきました。

そこで、CCCの活動の理念、目的などを再確認し、よりエネルギーのある活動となるように、全国のCCC、CECの館長、各県の情報文化局CCC担当職員を対象に、セミナー兼、評価会議を3月に実施。館長や職員31名が参加し、早朝から夜まで、発表、討議、研修が続くという大変熱心なセミナーとなりました。

活動の質を確保する目的で、今回会議で話し合われたこと、紹介されたことを含めて、CCC活動ハンドブック（運営の手引き）を作成し、全国に配付します。当初の予定では、セミナー実施前に製作する予定でしたが、各現場でより活用しやすいものとなるよう、全国の様々な事例や話を入れることとしたため、製作が大幅に遅れました。

（ご支援：日本国際協力財団）

III. 子どもブックフェスティバルの開催

ヴィエンチャン市教育局の子ども教育開発センター（CEC）で、2月に第2回「子どもブックフェスティバル」を開催しました。語りのコンテスト、絵のコンテスト、ステージでの発表、読書コーナーや図書販売コーナー、絵本の人気投票などが行われ、2日間の来場者は1,300人を超え、昨年を上回る大盛況なイベントとなりました。

IV. 課題

今期から、センターの自立と発展を意識して、各センターに今まで以上にきちんとした計画書（プロジェクトの背景、目的、場所、期間、内容、問題点、解決方法、求められる成果など）、予算書の提出を求め、内容をチェックし、支援の決定を行うようになりました。今後も大規模センターの人件費は削減し、小規模センターや新しいセンターの支援を増やしていく方向でCCC支援を続けてゆきます。

（ご支援：ACA－アクア、ミクプランニング（株）、三井住友銀行、指定募金）

組織運営

この1年の活動

- 第3次中期計画の評価、プロジェクトは順調
- 運営会議で25周年のあゆみ勉強会を実施
- 賛助会員の名称をサポーターへ
- ラオス事務所でのバックマージン問題

I. 全体運営

■理事会

本年度理事会は計11回開催。第3次中期計画の評価後、第4次中期計画の方向性の話し合いを重ねました。今後どのようなプロジェクトを重視していくかなど、運営の方向性の議論が深めました。

■会員

年度末の会員数は、活動会員 61名、賛助会員 73名(うち団体2)。本年度から新会員制度へ移行しましたが、計画目標、活動会員80名・賛助会員200名に達しませんでした。賛助会員という名称をサポーターに変え、より多くの方から支援をいただけるように工夫をおこなっています。ボランティア登録をしたメンバーは36名です。

■運営会議

運営会議は、計9回、延べ144人(うち理事とスタッフが63人)が参加しました。近年、運営会議はイベントの打合せが中心になるなど、意思決定に関わる度合いが低下。勉強会など学びの場としても形成できない傾向が続いています。そこで、今後の展望を共有化する目的で、7月8日～9日に、「私たちはどこに向かうのか」をテーマに、21名が参加する合宿を1泊2日で行いました。また、「25年のあゆみ」勉強会を、計4回運営会議で開催しました。

■2006年度通常総会

9月9日、第4期2006年度通常総会を、会員35名(うち11名書面評決、4名委任状)、賛助会員3名、ボランティア1名参加で、ライフコミュニティ西馬込で開きました。プロジェクト運営は順調に推移したのに対し、組織運営の強化、自己資金の調達はまだ充分といえる状況ではないことを説明。第4期事業報告、会計報告が承認されました。監査報告は、運営面プロジェクト面、ともに事業の一つとして評価に取り組むべき、との指摘がありました。2006年度事業計画・収支予算の報告も行いました。

■ラオス事務所

事務所の総合的な運営能力は向上していると判断していました。しかし一部スタッフが、本の製作者などからバックマージンを受け取っていたことが明らかになり、NGOの存在意義、モラルなどがまだラオス側には明確に伝わっていないことなど、組織として大きな課題が明らかになりました。

5月16日～24日にかけて、ラオス人スタッフ3人が来日。中期計画の策定会議に参加、図書館活動などを視察しました。

■計画評価

第3次中期計画が終了するにあたり、会員、ボランティア9名が参加し、評価会議を3月17日に開催。プロジェクト運営、組織運営に分け評価。プロジェクトは順調に進展しつつも、組織運営に関しては基礎作りの途上で終わっているという評価となりました。5月19日には、14名の会員、ボランティア、ラオス事務所スタッフ3名が参加し、第4次中期計画策定のための会議が開催。ラオスでは、CCCの活動の理念、目的を再確認し、全国のCCC、CECの館長、各県の情報文化局CCC担当職員を対象に、セミナー兼評価会議を3月に実施しました。

II. 東京事務所

■体制

2月に2年半ラオス事務所に駐在していた赤井朱子が帰国。東京事務所専従となり、替わりに猿田由貴江がラオス事務所に赴任しました。また、1年半、専従スタッフとして働いていた黒古真由が退職し、新たに関千春が入職しました。

■資金調達

収入において、指定募金の本年度調達実績は予算に届きませんでした。一般寄附や団体からの支援も、05年度の実績と比較すると、件数の落ち込みは深刻です。認定NPOの取得の準備も情報収集で終わっています。収入合計でほぼ予算額を達成しているのは、予算に計上されていない特別指定プログラムがあったこと、イベント収入や、現地での図書譲渡、物品販売などによります。一筆箋・便箋、Tシャツ、絵はがきなど、プロのイラストを使ったオリジナルグッズ販売、チャンタソンの本の委託販売をおこないました。

■事業調整派遣

2006年度の派遣は以下の通り実施しました。

- 06年 9月 : 黒古真由 スタディツアー同行
- 10月 : 森 透 JNNEライフスキル・マニュアル調査
- 10月 : 野口朝夫 CCC/CEC活動視察・配付セミナー同行
- 10月 : 猿田由貴江 JICA草の根技術協力事業の業務調整
- 07年 3月 : 野口朝夫 CCC/CECスタッフ会議出席
- 6月 : 森 透 バックマージン問題
- 6月 : 野口朝夫 バックマージン問題
- 6月 : チャンタソン バックマージン問題

この他、7月、12月、3月にチャンタソンが現地にて事業調整を行っています。

III. ラオス事務所

■体制

バックマージン問題が発生し、スタッフ間に、「法令違反ではないのにどうして厳しい対応なのか」「このような習慣には厳しく対応すべきだ」と意見に違いがありました。最終的にNGOとしての倫理性を強く打ち出す決定をおこない、団体としての倫理基準を明示しました。この問題からむラオス事務所長退職の影響で、全事業の実施が全体的に遅れています。アドバイザーのダラーが事務所長職の代行と現地代表の活動をおこなっています。現在の体制は以下のとおりです。

ダラー／アドバイザー（現地代表）

ミンクワンカム／コーディネーター（所長）→6月末で契約終了
スッター／会計担当

スラピー／読書推進事業担当

マライポーン／事務兼CCC事業担当→11月末で退職

チャンシー／図書管理及び研修実務担当

ヴィライポーン／事務所図書室管理、清掃担当

■現地での資金調達

ラオス国内の民間企業や民間財団などに対し資金調達活動を展開。寄附、業務委託などの成果を得ることができ、前年比150%の達成となりました。新聞の活動紹介などから、問い合わせがあり、会の認知が進んでいます。本の販売も増加しており、現地での資金調達率を向上させています。

■広報

本年度は、ラオス語版パンフレットの改訂版を準備。また、紹介パネルの内容更新をしました。これらの資料は、事務所訪問者への対応に加え、イベント参加などにも積極的に活用されました。コンテストの告知や活動紹介に

は、新聞やラジオを積極的に活用。「読書推進ニュースレター」の記事により、当会の活動をラオス語で多くの人に紹介することが出来ました。英文ホームページを見ての問い合わせが増えています。

■イベントなど

イベント開催や訪問受入が増加しています。

- 06 7/13 JICA草の根技術協力事業活動報告会実施
- 8/9-30 学習院女子大学ラオス国際協力研修受入
- 9/6 日本大学国際関係学部金谷ゼミ研修受入
- 9/8 「国際識字の日」イベント出席
- 9/16-20 ラオスのこどもスタディツアー実施
- 10/5-9 MP研究会 第2回現場視察派遣 受入
- 10/8-15 JNNEライフスキル教育マニュアル調査受入
- 11/2-6 MP研究会 第2回現場視察派遣 受入
- 12/16 出版記念式典実施
- 07 1/2-4 JICA青年招へい事業フォローアップ事業協力
- 1/26 ラオス国立図書館50周年記念式典に出席
- 1/31 JICA草の根技術協力事業 活動報告会に出席
- 2/3-4 子どもブックフェスティバルの開催
- 2/9、12 学習院女子大学スタディーツアー受入
- 2/21-24 早稲田奉仕園スタディーツアー受入
- 3/13、21 対話プロジェクトへの協力
- 3/23 JICafe 1周年記念行事出席
- 3/26-30 CCC活動セミナーの実施
- 4/6 ラオス正月イベントの開催
- 5/15-24 ラオス人スタッフ来日研修

■対外活動

日本人駐在員が、ラオスで活動する日本のNGOによる月例NGOミーティング(JANM)に、ミンクワンカムがラオスで活動するNGOの集まりである、International NGOミーティングに出席しました。

■コンクール応募

ラオス事務所が応募をとりまとめ、日本の紙芝居や絵画コンクールに応募しました。

- 11月 第9回花のまち可児・手作り絵本大賞 岐阜県
応募18作品 特別賞受賞
- 11月 第6回手づくり紙芝居コンクール 神奈川県
応募13作品 受賞1作品
- 3月 第16回世界子ども愛樹祭コンクール 福岡県
応募79作品
- 5月 第14回カナガワビエンナーレ国際児童画展
応募14作品 受賞1作品

特定非営利活動法人 **ラオスのこども活動** 25年のあゆみ この表は年度単位の表記ではなく、年ごとの表記となっています

年	ASPB 創立	絵本寄贈	学用品寄贈
1982年		・日本語の図書 絵本を送る	・学用品・文具 ・楽器・運動具・衣類を送る
1983年			
1984年			
1985年			
1986年			
1987年			
1988年			
1989年			
1990年	ラオス語図書の出版 『ピックリ星』ラオス語版出版・生活小冊子出版 7種		
1991年			
1992年	一般・古典書籍 ・大衆向け古典再版 ・学生向け古典再版 20種	小学校建設 ・ホーカーム村3教室 ・2教室 職員室増築 ・便所	
1993年	創作作品 ・創作絵本製作 ・絵とき辞書編集 ・音話 まぞなそ 15種	ポンプ 寄贈 ・絵本にラオ語訳の添付	ラオス事務所 ・年間スタッフ派遣・通訳発行 ・ラオススタッフの雇用 ・書庫設置
1994年	子ども向けコラム ・7誌に掲載	日本語絵本翻訳 ・絵本にラオ語訳の添付	東京事務所 ・1年間スタッフ派遣・通訳発行 ・ラオススタッフの雇用 ・有給スチーフの活用/週3回 ・片手間ホムランの増設 ・4人体制 ・常勤有給スチーフの雇用 1.5人体制 ・1人体制 ・7-コリス村支援開始(98~00) スチーフ22人体制 ・第一次中期計画策定(99~00) 初級受贈者 ・ボラティンによるイベント(麻布十番新涼祭り)開始 ・企業からの支援者募 ・片手間ホムランからの転換 ・ラオス事務所と協議による活動決定へ
1995年	子ども向け雑誌 『ワイドブック』出版支援 ・補充セミナー ・図書袋の配布	子ども文化センター ・ワイドブック、ホムランサイヤック 設置 絵画工作 音楽教室等 ・絵本製作セミナー ・紙芝居制作セミナー ・紙芝居制作セミナー ・ルアノハン 開設	子ども図書館 ・権限強化 ・来日研修 ・活動安定 ・ラオス事務所 ・8人体制 ・外部活動参加が増える ・法人化検討 組織・活動目的の文書化 スチーフ10人体制 ・JICA 開発ハートナー 日本人スタッフ兼任 ・MOU 法人化 名称変更 委員制度の策定 ・読書推進を越える 子どもの権利の確保 ・職務権限表・就業規則など ・第三次中期計画(04~06) ・学習院女子大学と提携 ・資金調達 力向上 ・クラノ類 ・会員概念の明確化 ・有償図書販売 スチーフ10人 ・中期計画評価会議 ・第四次中期計画(07~09) 問題
1996年	作る活動 ・絵本作家セミナー ・絵とき辞書出版 4種	日本語絵本翻訳 ・絵本にラオ語訳の添付	
1997年	子ども向け雑誌 『ワイドブック』出版支援 ・補充セミナー ・図書袋の配布	子ども文庫開設 ・全図書館で ・教員養成学校整備	
1998年	子ども向け雑誌 『ワイドブック』出版支援 ・補充セミナー ・図書袋の配布	子ども文庫開設 ・全図書館で ・教員養成学校整備	
1999年	子ども向け雑誌 『ワイドブック』出版支援 ・補充セミナー ・図書袋の配布	子ども文庫開設 ・全図書館で ・教員養成学校整備	
2000年	子ども向け雑誌 『ワイドブック』出版支援 ・補充セミナー ・図書袋の配布	子ども文庫開設 ・全図書館で ・教員養成学校整備	
2001年	子ども向け雑誌 『ワイドブック』出版支援 ・補充セミナー ・図書袋の配布	子ども文庫開設 ・全図書館で ・教員養成学校整備	
2002年	子ども向け雑誌 『ワイドブック』出版支援 ・補充セミナー ・図書袋の配布	子ども文庫開設 ・全図書館で ・教員養成学校整備	
2003年	子ども向け雑誌 『ワイドブック』出版支援 ・補充セミナー ・図書袋の配布	子ども文庫開設 ・全図書館で ・教員養成学校整備	
2004年	子ども向け雑誌 『ワイドブック』出版支援 ・補充セミナー ・図書袋の配布	子ども文庫開設 ・全図書館で ・教員養成学校整備	
2005年	子ども向け雑誌 『ワイドブック』出版支援 ・補充セミナー ・図書袋の配布	子ども文庫開設 ・全図書館で ・教員養成学校整備	
2006年	子ども向け雑誌 『ワイドブック』出版支援 ・補充セミナー ・図書袋の配布	子ども文庫開設 ・全図書館で ・教員養成学校整備	
2007年	子ども向け雑誌 『ワイドブック』出版支援 ・補充セミナー ・図書袋の配布	子ども文庫開設 ・全図書館で ・教員養成学校整備	

■本をつくる→人を育てる135種類64冊 ■本を届ける2686校へ配付・本を読む環境をつくる 学校図書室165校開設→教員への働きかけ ■子どもの居場所を提供9カ所支援→理念の共有 ■より広い子どもの問題を意識

2006年度 会計報告

2006年7月1日～2007年6月30日

2007年度 収支予算

2007年7月1日～2008年6月30日

I 収入の部

(単位:円)

科目	2005年度決算	2006年度予算	2006年度決算	2007年度予算
会費・寄付金 小計	7,271,465	8,100,000	5,310,105	6,040,000
一般寄付	3,982,465	4,000,000	3,800,270	3,600,000
活動会費	357,000	1,100,000	651,000	900,000
指定募金	2,932,000	3,000,000	858,835	1,540,000
プロジェクト援助金 小計	27,738,278	21,800,000	21,602,899	23,500,000
民間一般助成金	6,895,750	7,000,000	6,260,650	6,500,000
政府系補助金・助成金	20,157,867	14,000,000	14,501,150	16,000,000
現地受取補助金・助成金	684,661	800,000	841,099	1,000,000
その他 小計	9,891,796	4,720,000	7,544,511	6,250,000
特別指定	5,553,115		932,019	
イベント収入	2,851,352	3,520,000	3,886,131	4,000,000
雑収入	1,487,329	1,200,000	2,726,361	2,250,000
当期収入合計	44,901,539	34,620,000	34,457,515	35,790,000
前期繰越金	9,171,987	20,361,551	20,361,551	16,593,059
口収入合計	54,073,526	54,981,551	54,819,066	52,383,059

II 支出の部

科目	2005年度決算	2006年度予算	2006年度決算	2007年度予算
事業費 小計	26,059,735	35,493,492	30,493,255	28,707,440
出版事業費	4,125,506	4,351,722	1,914,969	2,629,200
図書出版	4,030,496	2,060,162	1,239,135	2,052,000
紙芝居出版	575	1,038,400	434,916	510,000
コンクール	0	1,121,000	234,782	
統括管理	94,435	132,160	6,136	67,200
読書推進事業費	17,174,835	23,472,914	21,833,190	20,019,600
草の根技術協力事業	13,664,383	17,747,790	16,573,242	16,024,800
学校図書室・教員養成校	2,712,354	3,435,924	3,555,101	2,394,000
統括管理	798,098	2,289,200	1,704,847	1,600,800
子ども文化センター支援事業費	2,355,956	3,592,156	2,741,568	3,245,640
各センター運営費	1,932,418	1,872,424	1,879,553	1,917,240
自立支援	178,726	948,012	484,148	900,000
統括管理	244,812	771,720	377,867	428,400
特別実施事業費	2,403,438	4,076,700	4,003,528	2,813,000
その他現地事業費	1,079,659	666,700	1,501,163	798,000
国内事業費	1,323,779	3,410,000	2,502,365	2,015,000
管理費 小計	7,652,240	6,608,370	7,732,752	6,595,200
東京事務所経費	6,259,217	5,639,000	6,569,577	5,502,000
家賃・水道光熱費	558,000	618,000	605,000	540,000
通信費・運搬費	172,592	215,000	169,627	180,000
事務費・記録費	144,158	216,000	255,649	252,000
広報費	1,159,714	1,090,000	741,060	950,000
人件費・交通費	3,947,600	3,060,000	4,198,584	3,120,000
出張費			349,198	
備品消耗品費	10,750	100,000	29,700	100,000
諸会費・会議費	133,412	170,000	138,606	140,000
雑費	132,991	170,000	82,153	220,000
ラオス事務所経費	1,393,023	969,370	1,163,175	1,093,200
家賃・水道光熱費	202,630	148,680	169,296	165,600
通信費・広報費	12,676	33,040	19,263	26,400
事務費・記録費	11,227	49,560	34,322	43,200
人件費・交通費	589,109	407,690	767,539	642,000
備品消耗品費	77,928	70,800	70,494	72,000
諸会費・雑費	499,453	259,600	102,261	144,000
予備費		1,500,000		500,000
当期支出合計	33,711,975	43,601,862	38,226,007	35,802,640
当期収支差額	11,189,564	-8,981,862	-3,768,492	-12,640
次期繰越収支差額	20,361,551	11,379,689	16,593,059	16,580,419

貸借対照表 2007年6月30日現在

科目	金額	
I 資産の部		
1 流動資産		
現金	233,791	
預金	15,146,615	
外貨	1,135,321	
前払費用		
仮払金	165,185	
流動資産合計		16,680,912
2 固定資産		
什器備品	15,478	
固定資産合計		15,478
資産合計		16,696,390
II 負債の部		
1 流動負債		
未払費用		
預り金	87,853	
前受金		
流動負債合計		87,853
負債合計		87,853
III 正味財産の部		
正味財産		16,608,537
(うち当期正味財産減少額)		(-3,768,492)
負債及び正味財産合計		16,696,390

特定非営利活動法人ラオスのこども

代表 森 透 殿

チャンタソン インタヴォン 殿

特定非営利活動法人ラオスのこども

監事 野口 賢一 (印)

特定非営利活動法人ラオスのこども 第5期 2006年7月1日から2007年6月30日までの会計年度について事業報告と会計報告の監査を行った結果、適正で妥当であることを認めます。

以上

監事意見

野口賢一監事から、事業計画、会計報告につき適正と認めるた上で、意見書を受け取りました。

1：事業

組織運営の安定化と強化を目指した取り組み、また、自立と現地化へ向けた組織の基盤づくりと人材育成は効果を上げており、適正に進められている。

・第3次中期計画は概ねその目標を達成したが、活動の成果としては「これから」見えてくるものと期待している。

・計画評価、事業評価をフィードバックし、次期中期計画を策定しているが、従前からの問題である会員の確保、資金調達が不十分である。

・「自立と現地化」の観点では、ラオス事務所の裁量で行う活動や直接受託事業の芽が大きく育つよう、今後も十分に考慮され適正に進められていくことを期待する。

2：会計

今期事業は基本方針に基づき執行され、計画の逸脱による収入及び支出はなかった。

・事業費の支出決定のルール、その基準を明確化し、運用管理についてもチェック体制の導入を図るなど会計業務の改善・強化が望まれる。

・指定募金をはじめとする個人支援者からの寄付金の減少は資金調達に対する不安となっている。資金調達は国内事業として位置づけ、現地プロジェクトと同列に考える必要がある。

・NGO活動として、より高い倫理性と説明責任を果たしていくよう期待する。

会計報告説明

収入は、プロジェクト援助金が予算額をほぼ達成していますが、会費・寄付金収入が低く、特に指定募金の収入が大幅に落ち込んでいます。活動会費は、予算額は達成していませんが、前期に比べると増加しています。

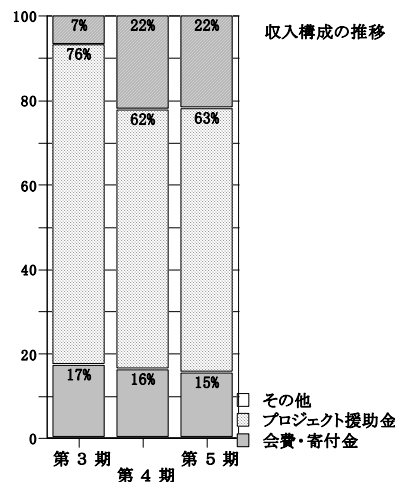
支出では、コンクール作品をはじめ出版作業が遅れ、期を越えての実施となったため、大きく予算を下回りました。また、紙芝居出版は、半分ほどの予算調達しか出来ませんでした。子ども文化センター支援事業は、館長スタッフ会議の資金が充分には調達できなかったため、決算額は低くなっていますが、ハンドブックセミナー時に会議を実施し、事業は達成しました。その他現地事業費では、計画にはない様々な団体や個人から委託された読書推進関連事業の実施により、予算を上回っています。国内事業は25周年記念事業が、期を越えての実施となり予算通りになっていません。管理費では、出張やスタッフ交替により人件費が予算額を上回っています。ラオス事務所では、ガソリン代の高騰による通勤費の値上、スタッフの保険料の値上がりなどにより、人件費・交通費が予算額を大きく超えています。

繰越金のうち600万円はプロジェクトが指定され、期を越えて実施が予定されています。

第3期～第5期 比較

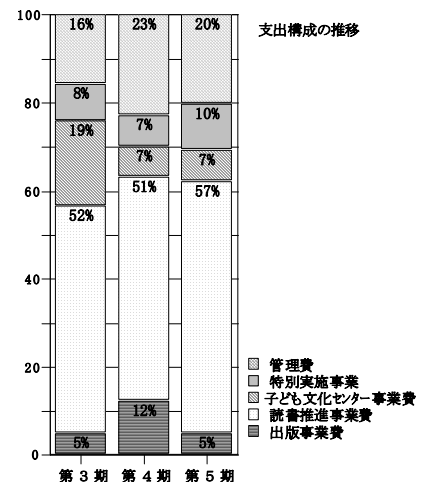
収入構成の推移

	第3期	第4期	第5期
会費・寄付金	8,631,674	7,271,465	5,310,105
プロジェクト援助金	37,672,225	27,738,278	21,602,899
その他	3,375,297	9,891,796	7,544,511
当期収入合計	49,679,196	44,901,539	34,457,515



支出構成の推移

	第3期	第4期	第5期
出版事業費	2,736,337	4,125,506	1,914,969
読書推進事業費	28,298,838	17,174,835	21,833,190
子ども文化センター事業費	10,687,040	2,355,956	2,741,568
特別実施事業	4,613,408	2,403,438	4,003,528
管理費	8,533,675	7,652,240	7,732,752
当期支出合計	54,869,298	33,711,975	38,226,007



I.プロジェクト運営

■出版

作品の質に重点をおき、継続的に多様な図書を出版。若手作家や編集者の育成や、少数民族向け出版にも力を入れます。「本はもらうものではなく買うもの」という意識をラオス社会に定着させるべく、本の流通システムの充実と拡大を図ります。

- (1) 子ども向け図書編集と出版
- (2) 次年度に実施するコンクールの内容の検討
- (3) 事務所内の本販売コーナーの充実
- (4) イベント販売や委託販売を増加、本の流通システム(販売経路)の拡大

■読書推進活動

JICAとの連携事業、草の根技術協力事業では、図書を維持・活用し、読書推進活動を学校教員、児童、地方自治体の関係者が主体的に担い、これらを地域住民が支え、全員で自立的に発展させていく仕組みを継続。これまでの活動を発展させ、現場への働きかけを強める活動を実施します。

- (1) 配布普及活動(継続的な取り組み)
 - ・新規の図書配付を90校、補充図書の配付を165校
 - ・『読書推進ニュースレター』を年3回発行
 - ・学校図書室(ハクアーン)を10校新規開設
 - ・3年以内に開設した図書室61校へ図書を補充
- (2) 効果と効率を高める
 - ・読書推進センターの設置
 - ・支援地域を絞り込む準備
 - ・積極的な読書推進活動をしている学校の表彰を促進
- (3) 現場への働きかけを強める
 - ・図書のある学校を巡回、指導できる人材の雇用・育成
 - ・県教育局のスタッフに、トレーニングを実施
 - ・「読む」ことを中心とした活動から、「書くこと」も含んだ活動へと発展。

■子ども文化センター(CCC)

「子どもの居場所」「自己表現・自己実現の場」としてラオス社会に定着してきた子ども文化センターを、持続可能な運営がおこなわれるよう理念の共有を深め、より質の高い活動になるように支援をおこないます。各センターに計画書、予算書の提出を求め、内容のチェックを行い、支援の決定をします。「子ども参加」を促進します。

子どもの状況の多様化に対応した「居場所の形成」「楽しさの共有化」を進め、この活動の意義を積極的に伝え、進めていく必要があります。

- (1) 9館の運営支援を継続
- (2) 新規小規模CCCの支援を1カ所増加
- (3) 活動の理念や役割を共有する「活動ハンドブック」を完成させ、理解を深めるために、セミナーとともに配付
- (4) CECの若手ボランティアチームとともに、ヴィエンチャン郊外の地域での、読書推進活動をおこなう
- (5) 現場で長期に渡り、青少年活動の人材を指導、育成する専門家の派遣に向けた準備をおこなう

■事務所図書室の活動

事務所1階の図書室を、休日や夜間に開き、有効利用。図書室の蔵書を充実させ、子どもから大人まで、様々な人への対応が出来るようにします。夜間に、成人の識字教育活動をおこないます。

II.国内事業

■広報

ホームページの全面刷新を最優先とし、情報発信と頻繁な更新を図ります。企業団体への訪問ツール、DMの開発、イベント用、ボランティア向け紹介ツールの開発をおこないます。ニュースレターは年3回の発行を継続。内容、ラオス情報の充実をはかり、当会設立25周年イベントを含め、メディアへの情報発信も積極的におこないます。

■イベント

イベントのための負担が過度にならないよう、主催イベントは積極的に、他団体主催の参加については、参加基準を作成し、戦略を明確にして効率的な参加を進めます。25周年記念事業として、これまでの活動を振り返り記録にまとめます。

■ラオス語絵本プロジェクト

ラオス語の翻訳が付いた美しい日本の絵本は人気があります。首都圏在住以外、企業、学校単位の参加など、様々な形で活動に参加できる大切なツールです。著作権の許諾を得てから大分時間が経っているため、再確認作業を進めます。

■書き損じハガキ収集キャンペーン

書き損じハガキ収集は、活動に気軽に参加できるツールです。通信送付の封筒に返送用封筒を刷り込むなどの工夫をおこない、多くの方に参加いただけるように展開します。

III.組織運営

■全体運営

最大の課題は、活動を支えてくださる会員に対し、活動や状況を迅速に伝えるサービスの提供。運営資金獲得の対外活動などに、積極的に取り組んでいきます。

理事会 理事会の審議事項を明確化させ、各理事の役割を明確化し、理事の仕事量の平準化、低減をはかります。今期は、長く活動支援をいただいていた脇田康司氏を監事に加え、9名となります。

会員 活動の基本である会員を増強する活動を重視し、積極的な働きかけをおこない、活動会員80名、サポーター(賛助会員)100名を目指します。支援者が、支援したことに満足いただけるよう、きめの細かいお礼や報告書の作成、対応のスピードアップ、質の向上を図ります。イベントなどでも会員の特典を考える予定です。

ネットワーク 活動の質の向上と国際社会への貢献を進めるために、引き続き国際協力NGOセンター(JANIC)正会員団体と教育協力ネットワーク(JNNE)に参加します。今期は事務局長の野口がJANICの常任理事に、代表の森がJNNEの副代表に選出。バックマージン問題を共有してもらうことも含め、ラオスで活動する国際NGOのネットワークとの関係も強化します。

計画評価・推進 3年間の予定のJICA草の根技術協力事業が折り返しになり、8月に中間評価がおこなわれます。東京からチャンタソン、赤井が参加、ラオス事務所スタッフ、JICA担当者とともにプロジェクトの現場を周り、成果を確認。後半の調整が必要かを判断。各プロジェクトでも、ラオス事務所スタッフの参加で、年度ごとの評価をおこないます。

■東京事務所

体制 常勤専従スタッフ2名、常勤非専従事務局長1名で運営を担当。充分でない体制のため、イベント参加の取捨選択など、業務の優先順位の明確化を進めます。ボランティア参加の高度化により、過重な労働の軽減、迅速な対応、問題解決への取り組みを図ります。

資金調達 会員増強を図り、会費収入を増やします。物販事業に積極的に取り組み、自主財源の比率が高まるように努めます。団体向けに参加型イベントメニューを開発。また、認定NPOの取得のため、その準備に担当理事を選出します。

ボランティア 役割と責任、保障などを定めたボランティア契約を結び、合意のもとで活動がおこなわれるようにしていきます。研修機会を設け、活動の参加が上がるようにすすめます。説明会を定期化し、新規参加者の加入をはかります。日本にいるラオス人に、会の理念、活動を伝える機会を増やし、帰国後の連携した読書推進活動が可能となるようにします。

■ラオス事務所

体制 ラオス人現地代表1名、スタッフ6名程度、日本人駐在員1名の体制で運営。NGOのモラル、理念の共有化を積極的に進め、職務権限の厳格な実施をおこないます。

資金調達 ラオス国内の外国政府機関、NGO、企業からの資金調達量を増やすよう、積極的に働きかけをおこないます。資金調達額を昨年度10%増を目標とします。図書販売を積極的に進めます。

広報 私たちの活動が広く知られるよう、積極的な広報活動を心がけます。各国のNGOと連携したプロジェクト展開を増やす目的で、プロジェクト内容の広報を活発化。英語版ホームページの作成をすすめ、情報が提供できるようにします。

イベント 活動をラオスで広く認知してもらうために、子どもや、NGOに関わる各種イベントに積極的に参加。ブックフェスティバルやブックパーティなどの主催イベントを継続して実施。本年は、設立25周年を記念したイベントを開催し、ラオス社会での存在感を強めます。

対外活動 専門度が深くなると、1団体でできることに限りがあります。ラオスで教育に関わる活動をおこなう団体との交流、情報交換を深め、相互に利点を生かせるような協力関係を築いてゆきます。

インターン 日本での組織拡大の一環、活動のPRの場として、ラオス事務所にてインターンの受入を進めます。そのためのルール作りをおこないます。

■2007年度役員

理事 チャンタソン インタヴォン(共同代表)
森 透(共同代表) 野口朝夫(事務局長)
小川直美 小沼千秋 近藤知子 塩谷光
監事 野口賢一 脇田康司



□東京事務所

〒143-0025 東京都大田区南馬込6-29-12,303

TEL/FAX 03-3755-1603

E-mail deknoylao@yahoo.co.jp <http://deknoylao.org>

□ラオス事務所

035/3 NOUAI 05 SAMSENETHAI RD. SIHOM CHANTHABURY,

VIENTIANE LAO P.D.R. P.O.BOX1518

TEL/FAX 856-21-21-3449

E-mail aspb@laotel.com